



第75号 富水地区まちづくり ふれあいだより

発行日 令和7年4月12日
発行 富水地区まちづくり委員会
広報分科会会長 村越一馬
事務担当 小田原市役所地域政策課内
住所 小田原市荻窪 300 番地
電話 0465-33-1389



愛すべきふるさと・小田原の歴史を知ろう

講師:小田原市文化財課 湯浅 浩氏

3月9日富水地区まちづくり委員会
地域振興・環境美化分科会が主催する
上記講演会が開催され、スタッフを含め
36名の方が聴講しました。

講演内容は①江戸時代から十五年
戦争までの歴史②二宮金次郎③小田
原城の3つに分けた2時間近いお話
でしたが、皆さん興味深く聞き入っ
ておられました。受講した私なりの「愛
すべき小田原」に誇りに思った小田原
を4つ紹介いたします。

1. 東海道随一を誇る小田原宿

小田原宿が成立したのは1601年
(慶長6年)です。かつて関八州を統一
した後北条氏の城下町として繁栄し
た小田原は、関東の出入り口として重
要な拠点でした。

小田原は宿場町としての機能を備
えた城下町であり、領主の居城を中
心に整備され、宿場町としての特有な
町割り(図1)をもち、その規模は神奈
川県内では最大の宿場町でした。

本陣と脇本陣が4軒ずつあり、東海
道53宿の中では最も多く、庶民の利
用した旅籠屋も江戸後期の天保年間
には100軒を超えるにぎわいを見せて
いました。その理由は、難所である
箱根越えに備えて、ほとんどの人が宿
泊したこと。もう一つは当時の酒匂川
は、人夫に担いでもらい渡る徒渡し
(かちわたし)しか方法がなかったた
め、雨で増水すれば川留めとなり、宿
泊を余儀なくされたためでした。

2. 江戸より築造が早い小田原台場

台場とは幕末の異国船来航に対す
る海防における砲台を指します。

小田原の海岸には、江戸品川台場
よりも早く1852年(嘉永5年)に3基の
お台場が築かれました。

お台場築造の中心人物は、葦山代
官江川太郎左衛門英龍^{ひでたつ}で、戦国時代
より北条氏に仕え当主は代々太郎左
衛門を名乗りました。西洋事情や高島
流砲術を学び、西洋砲術塾「葦山塾」
を開き、そこで免許皆伝を受けた3人
の小田原藩士が台場の築造を開始し
ました。それと並行して全32門の大砲
が造られ、荒久、代官町、方町の3カ所
に小田原台場が竣工しました。

小田原文久図(図2)で、その3カ所
を確認することができます。

3. 貸出頻度の高い石切図屏風

小田原市郷土文化館に所蔵されて
いる「石切図屏風」(図3)は、他の博物
館への貸出し頻度の最も高い文化財
の一つです。この図には、根府川から
湯河原に至る海岸線が描かれ、山側
の石切場から石を切り出して、海岸線
の集積場まで牛に曳かせて運搬し、
海に浮かぶ台船に乗せ、その台船を
帆船が曳いていくまでが描かれてい
ます。戦国・江戸時代を支えた石切の
生産活動を知る貴重な作品です。

海岸に浮かぶ船には大久保の藤紋
が付いているので、幕府の仕事に小
田原藩が協力している様子もわかり

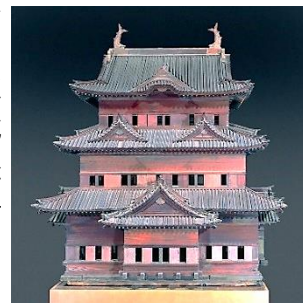


講師の湯浅浩さん

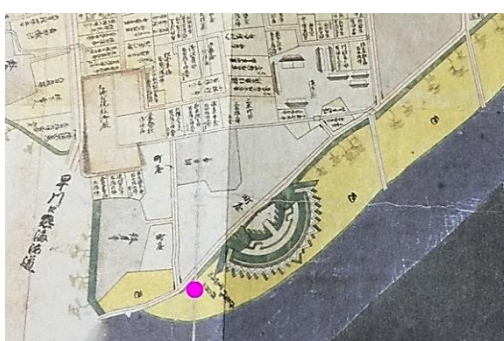
ます。「生命の星・地球博物館」と「石
垣山一夜城」を結ぶの間には国指定
史跡の早川石丁場(採石場)と石曳き
道があり、現在は道路や階段で整備
され、保存・公開されています。

4. 小田原城は関東唯一の天守閣

江戸時代は武家諸法度により、新し
い城を築くことを禁止しました。幕府
のお膝元の関東では、徳川御三家の
水戸城でさえも幕府に気を遣い御三
階櫓と称していました。一方、もともと
城郭があった小田原は、関東の譜代
大名として唯一、五重の姫路城に匹
敵する高さの、三重四階建て(27m)
天守(図4)が築かれました。しかし、三
重の木造高層物は地震に弱く、寛永と
元禄の二度の地震に遭いながらも再
建され、明治の廃城令で取り壊される
まで400年間姿をとどめました。現在
の小田原城は戦後に鉄筋コンクリー
トで外観復元されたものです。[図4]県指定文化財小田原城模型



[図1]小田原宿中心部の町割と本陣清水屋



[図2]早川港に近い海岸にある荒久台場



[図3]石切図屏風の石曳きの様子